「常勝軍団をつくりたい」と話すソフトバンクの笠井球団社長＝東京都内

ソフトバンクは、プロ野球参入７年目の今季、初の日本一に輝いた。レギュラーシーズンを圧倒的な力で２連覇。交流戦や苦手のクライマックスシリーズ（CS）など短期決戦も勝ち抜き、完全制覇を果たした。参入以来、球団社長兼オーナー代行を務める高松市出身の笠井和彦氏（74）に悲願を成し遂げた今の思いや今後の展望を尋ねた。（運動部・宮川豪介）

インタビュー

笠井 和彦 ソフトバンク球団社長

常勝軍団目指したい

独立リーグとの試合は刺激

―公言していた「日本一」を見事達成した。

「念願がかなった。監督以下、コーチ、選手全員が活躍して勝ち取った栄冠。ファンもレギュラーシーズンだけで昨年より15万人多い約230万人がヤフードームを訪れてくれた。これは過去最多の動員で、日本一を力強くバックアップしていただいた」

―昨オフには内川、細川ら大型補強を敢行。

「内川は首位打者を取る数字通り、期待通りの活躍。細川も若手投手陣の力をうまく引き出してくれた」

―若手や中堅選手も台頭してきた。

「次の時代を背負ってくれる若い選手が出てきたのは頼もしい限り。補強選手が注目されているが、それ以外の選手も持ち場で力を発揮してくれた。まさに全員野球。全員で秋山監督が考えている野球を実現した」

―レギュラーシーズンは圧倒的な力で2連覇を果たした。

「2位とは17・5ゲーム差。交流戦もすべてのチームに勝ち越して優勝できた。苦手のCSも3連勝で乗り切り、勢いを持って日本シリーズに臨むことができた」

―黄金時代到来の呼び声も高い。

「まだまだ。好不調の波もあるし、FAなどの問題もある。当然のことながら、来季は他球団も打倒ソフトバンクで挑んでくる。さらにチーム力を強化していかないと」

―FAでは和田、杉内、川崎ら主力選手の流失がささやかれている。

「FA権というのは個人の権利。残ってほしいし、引き留めにも全力を注ぐが、球団がとやかく言えるものでもない。話し合いを続けていくしかない」

―日本シリーズ最高殊勲選手賞の小久保は来年41歳。世代交代も避けられないテーマだ。

「内川は来年もやってくれると思う。松田も来年はホームラン30本を目指してほしい。特に打撃陣は若い選手に引っ張ってもらうのが理想的。例えば小久保が6番を担うような布陣。監督もそう考えていると思う」

―それには選手育成が重要になってくる。

「一つとして今年も豪州やドミニカなどのウインターリーグへ若手選手を派遣している。今季は昨オフに派遣した岩崎、大場、福田らが成果を示した。また新しい芽が出てきてほしい」

―育成面では今季、3軍制を導入し、四国アイランドリーグplusとの定期交流戦も行った。

「3軍はすそ野を広げるのが狙い。実戦でしか学べない部分も多く、それはわれわれも重視するところ。独立リーグとの試合は双方に刺激があると思う。これからもどんどんやっていきたい」

―中長期的なプランも含め、今後の抱負を。

「事業もそうだが、さまざまな面でナンバー1を目指すことがグループのDNAだ。これまで短期決戦に弱いというのがあったが、今季はようやく乗り切れた。常に日本一を取りたいし、常勝軍団を目指したい。そういう戦力を育てたい」

―モットーは目指せ、世界一。

「まずはその機会を作らなければ。日本一にならないと負け犬の遠ぼえみたいだったが、これからは違う。米国のワールドシリーズ優勝チームとの戦いを他球団やNPB（日本野球機構）に働き掛け、実現に向けバックアップしたい」